

中小企業動向 トピックス

中小企業の業況は2期連続でマイナス、先行きは慎重な見方

第195回「中小企業動向調査」結果概要

〔2007年7～9月期実績、同年10～12月期および2008年1～3月期見通し〕

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2007年9月に第195回中小企業動向調査を実施しました（調査対象12,771社、有効回答企業数6,138社、回答率48.1%）。

中小企業の景況感を表す業況判断D.I.は、マイナス幅が拡大し2期連続でマイナスになりました。先行きについてもマイナスが見込まれ、引き続き慎重な見方となっています。また、売上げD.I.は、引き続きプラスを維持していますが、3期連続でプラス幅が縮小しました。

従業員D.I.は、プラス幅がやや拡大しましたが、設備投資実施企業割合は9期ぶりに30%台を割り込む結果となりました。

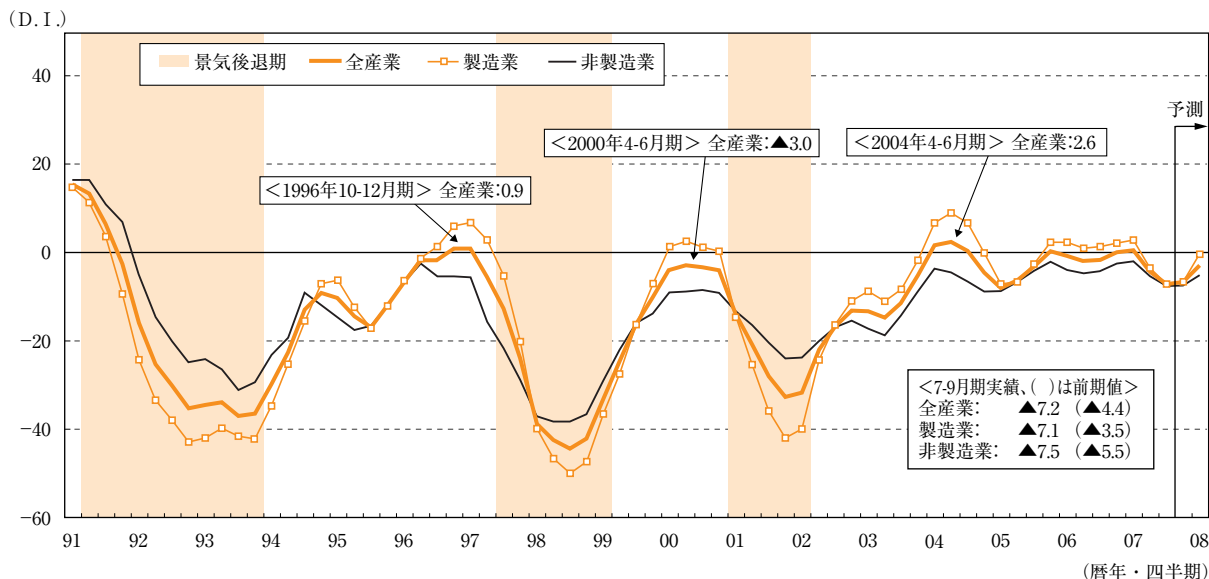
業況判断D.I.は、2期連続でマイナス

中小企業の2007年7～9月期実績の業況判断D.I.（全産業）は、▲7.2と前期実績を2.8ポイント下回り、2期連続のマイナスとなりました。

産業別にみると、製造業では前期実績から3.6ポイントマイナス幅が拡大し、▲7.1に、非製造業では前期実績から2.0ポイントマイナス幅が拡大して▲7.5となっています。製造業、非製造業ともに2期連続の悪化となりました。

先行きについては、1期先が▲7.0、2期先が▲2.9となっており、慎重な見方が続いています（図表1）。

〔図表1〕業況判断D.I.の推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

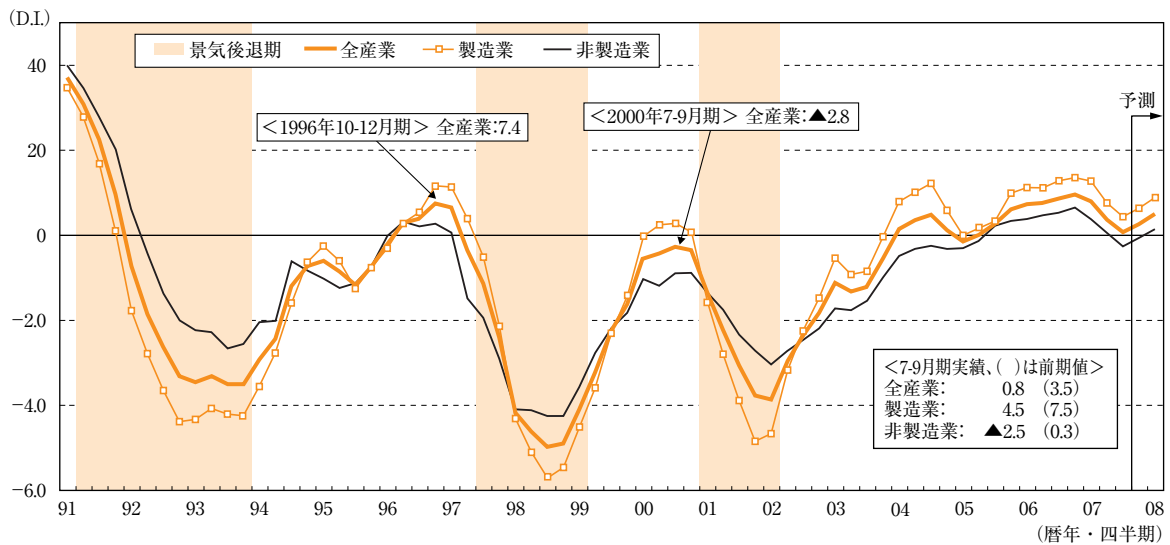


売上げD.I.は3期連続でプラス幅が縮小

2007年7～9月期実績の売上げD.I.（全産業）は0.8となりました。プラスを維持したものの、前期実績を2.7ポイント下回る結果となり、3期連続でプラス幅が縮小しました。製造業では非鉄金属、鉄鋼、化学工業でプラスとなっている一方、木材・木製品がマイナスに転じ、窯業・土石などではマイナスが続いています。非製造業では、水運業、情報通信業でプラス幅が拡大したものの、不動産業、卸売業でマイナスに転じ、建設業ではマイナスが続いています。

先行きは、製造業、非製造業ともに改善を見込んでいます（図表2）。

（図表2）売上げD.I.の推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）

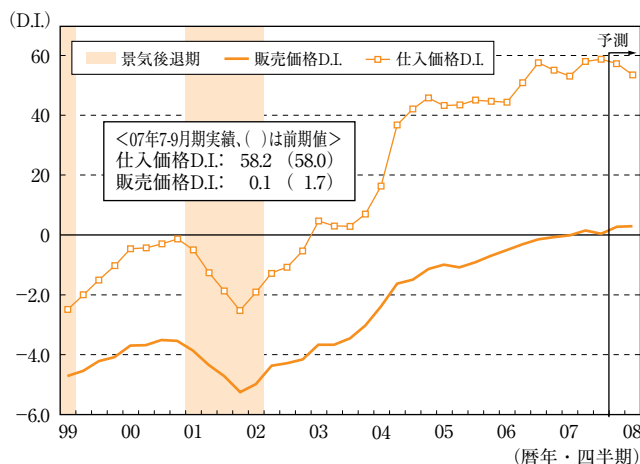


販売価格D.I.はプラス幅縮小、仕入価格D.I.は高水準を維持

販売価格D.I.（全産業）は、2期連続でプラスとなったもののプラス幅は縮小しました。また、仕入価格D.I.は、ほぼ横ばいで、依然高い水準での推移が続いています。

先行きについては、販売価格D.I.はややプラス幅が拡大し、仕入価格D.I.は高い水準が続く見込みとなっています。（図表3）。

（図表3）価格D.I.（全産業）の推移
（「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、原数値）



販売価格D.I.を業種別に見ると、製造業では、鉄鋼で依然大幅なプラスを維持し、化学工業でプラス幅を拡大させたものの、非鉄金属などでプラス幅が縮小しており、電子部品・デバイス、印刷・同関連、窯業・土石などではマイナスが続いています。

非製造業では、水運業などでプラス幅が拡大した一方、情報通信業、運送業でマイナスに転じ、建設業ではマイナスが続いています。

仕入価格D.I.を業種別に見ると、プラスチック製品、鉄鋼などで素材価格の高騰から高止まりしています。一方、非鉄金属、精密機械、木材・木製品などでプラス幅が縮小しました。

純益率D.I.は2期連続でマイナス幅が拡大

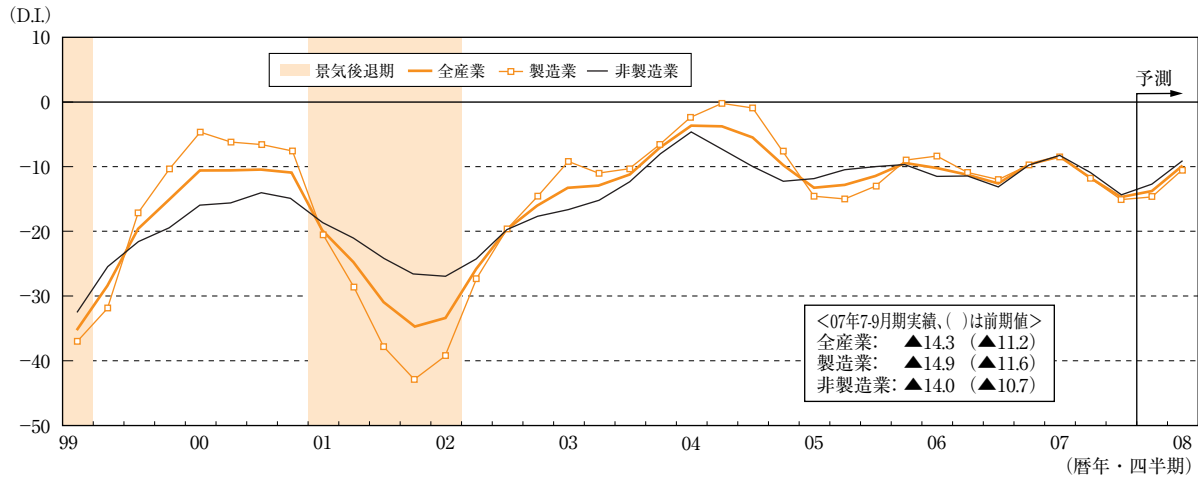
純益率D.I.は、2期連続でマイナス幅が拡大し、▲14.3となりました（図表4）。

製造業では、鉄鋼、非鉄金属でプラスとなったものの、その他全ての業種でマイナスとなっています。中でも、木材・木製品、印刷・同関連、窯業・土石などでマイナス幅が拡大しています。

非製造業では水運業、情報通信業でプラスを維持したものの、建設業、卸売業、小売業などでマイナス幅が拡大しています。

先行きについては、製造業、非製造業とも、緩やかな改善を見込んでいます。

（図表4）純益率D.I.の推移（「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、季節調整値）

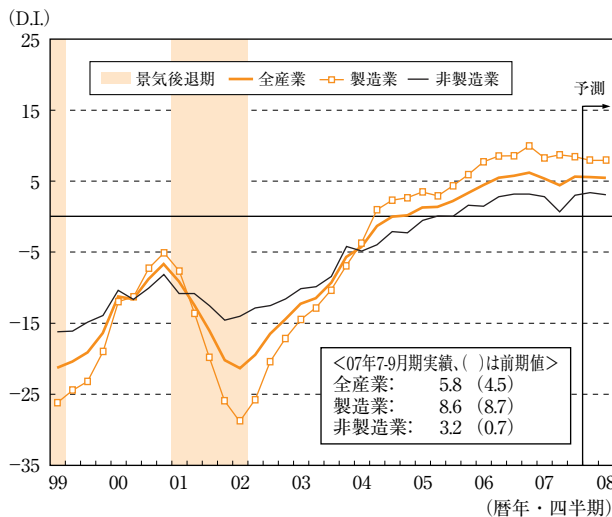


中小企業の雇用は底堅さを維持、設備投資実施企業割合は一部業種にやや弱い動き

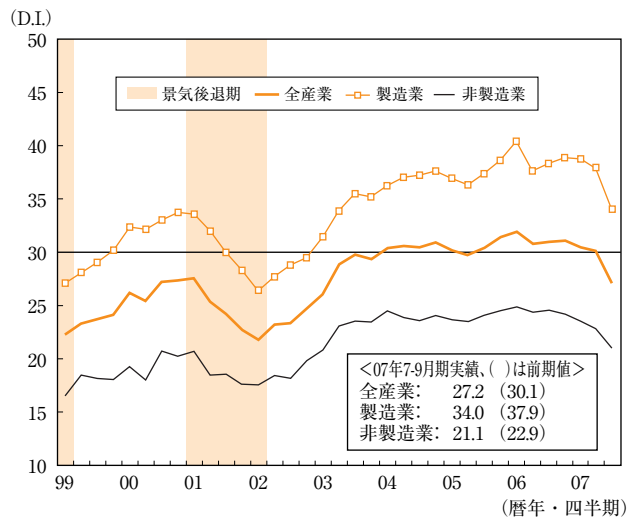
従業員D.I.（全産業）は、プラス幅が拡大し、堅調に推移しています。製造業、非製造業ともにプラスを維持しており、中小企業の雇用マインドは底堅いものとなっています（図表5）。

また、設備投資実施企業割合（全産業）は、やや低下し9期ぶりに30%を割り込みました。業種別に見ると非鉄金属、輸送用機械などで高水準となっている一方、繊維・繊維製品、木材・木製品などで弱い動きとなっています（図表6）。

（図表5）従業員D.I.の推移
（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



（図表6）設備投資実施企業割合の推移
（実施企業割合、%、季節調整値）



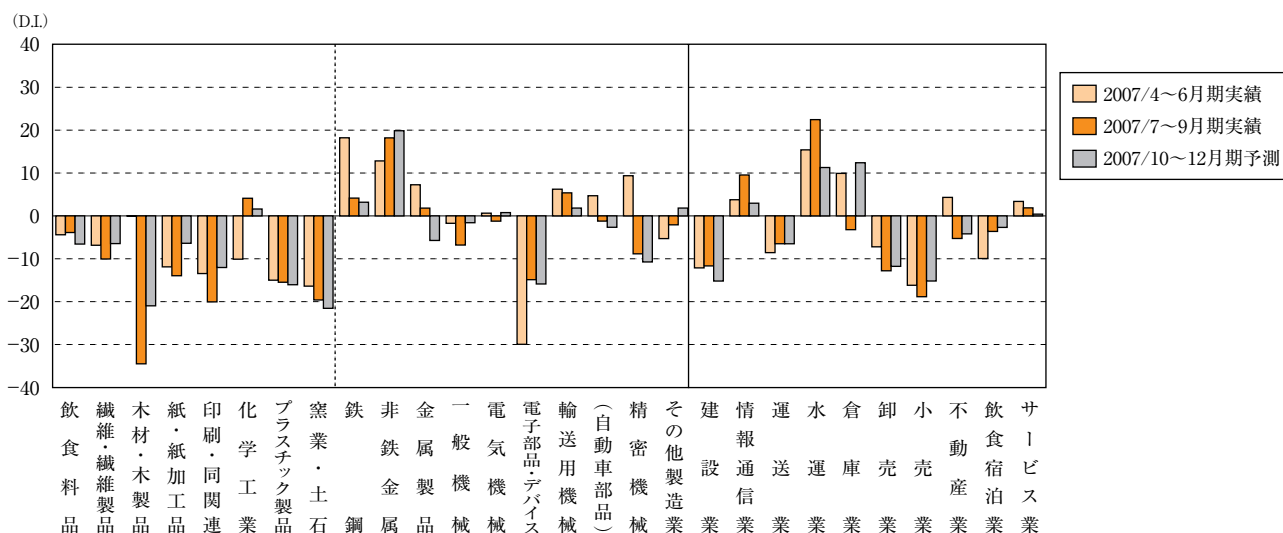
一部の業種で大幅な悪化も

業況判断D.I.を業種別にみると、製造業では、非鉄金属でプラス幅が拡大したほか、電子部品・デバイスでマイナス幅が縮小しました。一方、建築確認申請の変更による影響から木材・木製品でマイナス幅が拡大したほか、窯業・土石、印刷・同関連などではマイナスでの推移が続いています。

非製造業では、水運業、情報通信業でプラス幅が拡大しました。一方、建設業、卸売業、小売業などではマイナスが続いています。

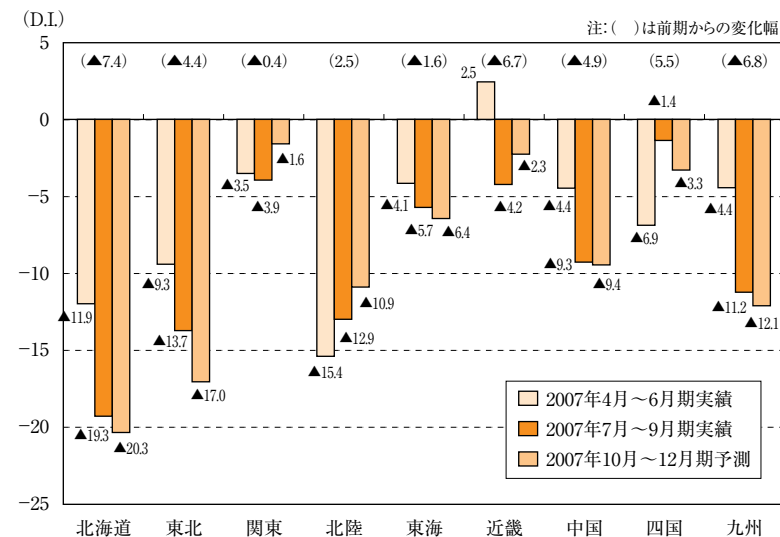
先行きについてみると、製造業では、非鉄金属、鉄鋼、化学工業ではプラスが続く見込みとなっていますが、印刷・同関連、窯業・土石、電子部品・デバイスなどではマイナスが続く見込みです。非製造業では、情報通信業、水運業でプラスが続く見込みですが、倉庫業ではプラスに転じる見込みとなっていますが、建設業、卸売業、小売業では引き続きマイナスが見込まれています（図表7）。

（図表7）業種別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



9期ぶりに全ての地域でマイナスに

（図表8）地域別業況判断D.I.の推移（季節調整値）



業況判断D.I.を地域別にみると、前回唯一プラスを維持した近畿でマイナスに転じ、全ての地域がマイナスとなりました。

中でも、北海道、東北、中国、九州などでマイナス幅が拡大しています。

先行きについては、関東、北陸、近畿で改善を見込むものの、その他の地域では慎重な見方が続いています（図表8）。

（楠本 敏博）

「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：中小企業金融公庫 総合研究所 ホームページ <http://www.jasme.go.jp/>